

●今月の断酒表彰

今月の断酒表彰該当者はありません。

2022 (令和4) 年6月1日発行 No.232

編集・発行 事務局・広報部

<https://kz925.com/suita>



断酒に思う 127

「個と集団と」

南千里支部 M N

入会后断酒例会で棚卸し作業を繰り返してきた。最近自身が行ってきた同じ言動について様々な方向から見つめ直すことができるようになったのではと感じている。

断酒新生指針に「自分を改革する努力をし、新しい人生を創る」とあるが、自己の改革は一義的には行動様式（端的に言えば酒を飲まない生活へ）の変化ということになるが、その維持継続には自己の価値観の変容が不可欠であると思う。そのためには酒に囚われていた時期のみならず幼少期から成年までの時期を振り返り、価値観、人生観が形成されていった自身が置かれていた環境を再点検することが欠かせない。

盆正月、秋祭り等では機会あるごとに集い、家庭にあつては毎晩晩酌で男の大人が酒を飲むのは当然であった幼少～高校時代、時々コンパ等で痛飲もしていた大学時代、機会飲酒が増えてきて早い時期に独り飲みにもなっていた社会人独身時代、晩酌に留まらず深酒、深夜帰宅も多かった新婚時代、多額の負債を抱えながらも飲酒が止まらなかった結婚後期、負債問題が解決するも一日中飲酒しながらの会社生活を送っていた再婚初期、断酒会入会とその後の断酒生活、現在までの来し方を飲酒との関係を概括すればこのようになる。

大人になれば飲むのは当然という家庭で育ち、社会人になり当然のように飲酒する環境にあり、何の抵抗も感じずに年月を過ごし、遂には飲酒のブレー



キが利かなくなるというアルコール依存症になったという経過である。専門病院につながり、長年の大量飲酒からアルコール依存症になったことを知り、その後断酒会に入

会し回復へ向けての断酒生活が続いているという現状である。

毎回の断酒例会での振り返りで自身の飲酒がどれだけ周囲に迷惑をかけてきたかを思い起すなかで、自分と集団（家庭又は会社等）との関係についての捉え方がおかしくなかったのかということ点を点検してみた。

まず家庭について、子供の頃の家庭は自分にとっては安息の場であったが、家庭を構えて世帯主となった自分にとっては、仕事で疲れた自分の休息の場だけでなく、一家の長として妻や子の安息の場を確保し、各自が成長する機会を提供する場所ではなかったのかと思う。妻は家事に、子供は勉強や習い事に勤しんでおり、家庭は彼女らにとっての大事な休息の場でもあったのだ。自分は働いて収入を得ているのだから、家では酒でも飲みながらゆっくり休養するのは当然だという段階で思考を停止し家族の構成員である妻子のことは頭から飛んでいたのではないか。家庭が休養の場であるならば、外で飲みながら疲れを癒しても同じことだとの思いもあったのだと思う。



また、会社においても、自己の職務を果たすだけで十分としていたことが、余裕のある時間帯で勤務中の飲酒にもつながっていたのだと思う。管理職として部下の処理能力や勤労意欲の向上等会社人間としての成長に目を配るという視点が欠けていたと思う。

自分の仕事さえこなしていればという言い訳では済まされない生き方であったことを感得した次第である。断酒継続とは酒を止めているだけではないことを確信するためにも、多面的な棚卸しを継続し、誤った視点を発見し、今後の生き方に資していきたい。

断酒会規範一

断酒会は酒害者による酒害者のための自助集団である。

断酒会は、自らの意思によって酒を断とうとする酒害者が連帯してつくった組織である。

断酒会は、酒が原因でつくられた様々な問題をお互いの信頼関係を通して解決し、新しい人生を創ろうとする酒害者の組織である。

断酒会は、平等な立場で参加した酒害者の主体性によって運営される組織である。

また、酒害者の真の理解者は酒害者であるので、断酒会は自らの断酒のみならず、酒で苦しんでいる地域の酒害者のために何をすべきかを常に考え、積極的に援助活動をする組織である。

従って、断酒会は酒害者のみによって構成され、あらゆる面での自立を重視する自助集団である。自助とは自らの努力で自らを救うことであり、自助集団とはそうした人たちが集まり、それぞれの力を結集して、より大きな力を生み出す組織のことである。

その大きな力を生み出す原動力は、何といたってもわれわれ酒害者同士の一体感である。共通の悩みを持ち、断酒新生という共通の目的を持つわれわれは、お互いが酒害者であるがゆえに融合し、ひとつの大きな力となった。アルコール依存症は不治の病であるという社会の偏見をくつがえし、現在、数万の酒害者がひたすら回復の道を歩んでいる。 〈中略〉

断酒会は自らを酒害者だと認めた人の組織であるが、認めていない人の入会も歓迎される。現在認めていないだけで、やがて認めるからである。

断酒会は断酒の意思のない酒害者の入会を受け入れる。断酒意思が潜在していたり、入会后、それを持つようになるケースが多いからである。

指示的、支配的傾向の強い会員でも非難しない。ただし、助言はする。そうした傾向が長く続くと仲間たちの調和を破り、脱落する可能性が強いからである。

〈中略〉

われわれ酒害者が酒害者のために行動するのは、何

も地域で苦しんでいる酒害者だけが対象ではない。入会しても断酒ができない会員、断酒ができていても人間性の回復が遅れていて様々なトラブルを起こす会員、そうした人たちを援助し、助言することも、われわれの大切な役目である。 〈後略〉

みんなの広場



親友と義父から薦められ、譲られた中古クラブから始めたゴルフも35年が経過しました。

ベストスコアが出た60歳の平均スコアは昨年72歳のそれより11少ないので年々腕前は下降しています。しかし同窓会コンペで顔を合わせ酒なしで近況報告をしあう喜びは何にも代えがたい。自身の大病からの回復に感謝です。年々仲間は減っていくが健康のため



可能な限り続けていきたいと思っています。

かつてのホームコース「神有カントリークラブアウト3番ショートホール」池に入れたり、左にOB、右の崖上に打ち込んだり。難しいホールですが失敗もいい思い出です。 吹田支部 ○ T

お知らせ

●南河内断酒連合会一日研修会（無料）

6月12日（日）12:00~16:00

すばるホール（富田林市） ※6月5日締め切り

●泉州断酒連合会一日研修会（無料）

7月10日（日）12:30~16:00

和泉市立人権文化センター ※6月18日締め切り

●近畿ブロック滋賀大会（2,000円）

8月7日（日）10:00~15:30

守山市民ホール ※7月24日締め切り